

PATENT Attorney®

日本弁理士会広報誌

2012

●「PATENT ATTORNEY」は
「弁理士」のことです。

パテント・アトニー

春

VOL. 65

◎ヒット商品はこうして生まれた

ヒット商品を支えた知的財産権

激しく動く犬が特徴の貯金箱

「貯犬箱」

- 特許調査よもやま話
- ジャーナリストごぼれ話
- 知っておきたい！この技術
- トレンドでつく（バネ式フィルター）
- シリーズ特産品（嶽きみ）
- 知的財産権なんでもQ&A
- 漫画「なすびくんのお仕事」
- 特許庁からのお知らせ
- JPAA Information



ヒット商品は、こうして生まれた!

ヒット商品を 支えた 知的財産権

VOL.
65

激しく動く犬が特徴の貯金箱 「貯犬箱」

意匠登録 第1383939号
商標登録 第5295891号
商標登録 第5343065号



お腹をすかせた犬が、わき目もふらずにエサを平らげる。そんなイメージでつくられたのが、株式会社ウィズと株式会社ハピネットが共同開発した「貯犬箱」だ。2009年11月の発売からわずか3ヵ月で4万8000個を出荷。11年末までの累計販売数はおおよそ国内10万個、海外20万個にのぼる。また、独創的かつヒットの可能性が高いギフト商品に贈られる英国「ギフト・オブ・ザ・イヤー2010」ホットノベルティ部門大賞を受賞している。

製造元のウィズの企画開発部・清水浩平さんは「犬がご飯を食べるしぐさを玩具にしたかった」という。かわいらしさを強調した犬の玩具が多い中で、激しい動作でエサにがつく姿はユニークだ。

エサ皿に入れたコインが、食べる動作の振動で下の箱に滑り落ちていく

が、複数枚を投入すると動作が継続するよう、コインが一度に落ちない工夫がされている。また、犬の表情をより多くの人に好まれるものに調整するのも、難しかったところだという。「のら犬という設定で、特定の犬種をキャラクター化したわけではありません。いろいろな部分が動くようにするために、耳を長くしました」(清水さん)

さらに、貯犬箱の特徴でもある激しい動きによって、関節部分のロックが起きるのを回避するための試行錯誤があった。5時間以上連続で動かしても不具合が出ないように、コマ数ミリ単位で金型の微調整をするなど、通常の商品より開発に時間をかけたそうだ。

貯犬箱は2010年1月に香港トイフェアに出品され国際進出を果たすが、早くも3月に中国製の模造

品が発見された。「玩具は正規品から型をとって、まったく同じものを出されるケースが多い」という同社法務知財担当者が見せてくれた模造品は、素人目には判別のつかないものだった。国内でもネットで販売されていることが発覚、流入阻止に力を入れているようだ。また、「貯犬箱」のほか、ヒットを受けて「笑撃アクション」の商標登録を行い、シリーズ化した商品を次々に展開している。

玩具はサイクルが短いため、知財戦略は意匠、商標が中心になる。「意匠は公表前に出願しますが、最終的なデザイン決定が玩具ショーなどに試作品を出す直前の場合もあり、出願のタイミングが難しいところだ。幅広く活用できそうな機械的な開発は特許を出願しています。開発した製品を守る知財は重要です」

(同社法務知財担当者)

特許調査 よもやま話

今回は、VOL.64(冬号)の続きです。VOL.64では、特許電子図書館の特許・実用新案検索の「公報テキスト検索」で、国際特許分類(IPC)のB41J2/19(インクジェットプリンタのノズルに関して、気泡を取除くもの)を検索するとゼロ件になり、一方、ヨーロッパ特許庁のデータベースEspacenetで同じ分類を日本特許文献に限定して検索すると421件がヒットすることを紹介しました。それでは、特許電子図書館では、気泡を取除く発明の特許分類で検索できないのでしょうか。FI記号には適切な分類がありませんが、Fタームには、インクジェットプリンタに関して、

インクの気泡を取除く分類として、例えば、2C056EA15(気泡除去、気泡発生防止)、2C056EC49(気泡の分離、除去のための制御)、2C056KD02(気泡の分離、除去手段に関するもの)があります。そして、特許電子図書館の「特許分類検索」というサービスでは、Fタームで検索できます。「特許分類検索」で、上述の三つのFタームの論理和で検索すると、2,267件がヒットします。こんなにたくさんあります。しかし、「特許分類検索」では、言葉を使って絞ることができないので、調査には不便です。気泡を取除く出願がこんなにたくさんあるのですから、IPCのB41J2/19も付与しておいてくれないかな、と思います。(弁理士 鈴木利之)

シリーズ JAPAN **特産品** 「**嶽きみ**」
商標登録 第5042511号

青森県弘前市にそびえる津軽富士と言われる岩木山の麓には、通称「嶽」と呼ばれる地区があります。



「嶽きみ」は、岩木山麓で収穫される秋の味覚として、全国に知られるとうもろこしです。(津軽地方ではとうもろこしのことを「きみ」と呼びます。)



嶽地区は、標高400～500メートルに位置し、昼夜の気温の差が非常に大きいことから、とても糖度が高く甘～い【きみ】が収穫されます。プチプチと口の中で弾ける食感が特徴です。

秋の収穫シーズンともなれば全国各地へ発送され、弘前市岩木地区の沿道に並ぶ直売所には、茹であげられた「嶽きみ」の甘い香りに誘われた行楽客で大にぎわいとなります。しかし、「嶽きみ」が現在のブランドを築くまでには、荒野の開拓に挑んだ入植者たちの苦難の歴史がありました。

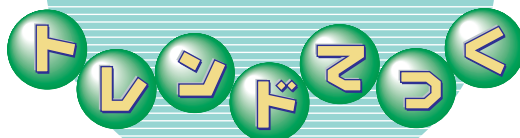
「嶽きみ」の育ての親ともいえる「つがる弘前農協嶽きみ部会」(鈴木健・部会長)の成り立ちは、昭和24年にさかのぼります。終戦後、サハリン(樺太)から引き揚げてきた鈴木さんの父(故人)ら十三戸が、岩木山麓の瑞穂地区で、原野の開墾に着手しました。標高の高い高原は農業用水に乏しく、土壌も耕作に不向きで、その打開策の一つとして取り組んだのがトウモロコシでした。

昭和62年には、瑞穂開墾地以外の農家も加わり、旧岩木町農協(現つがる弘前農協)とうもろこし部会(現在は嶽きみ部会)が発足。農協を通じた首都圏への出荷ルートができました。

部会には現在19人が加盟し、畑は合わせて約150haに拡大。「嶽きみ」は平成19年4月に地域ブランドとして商標登録されました。部会では毎年、新品種の栽培試験を繰り返し、お客様に喜ばれるよりおいしい「嶽きみ」づくりにチャレンジしています。



知っておきたい!この技術



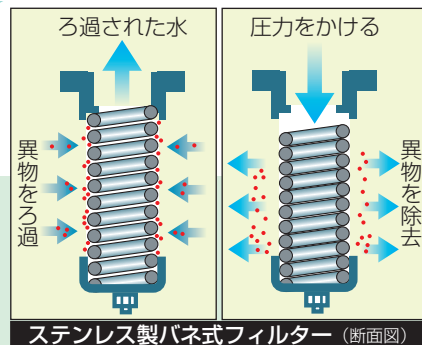
シリーズ
8

バネ式 フィルター

水を濾過するフィルターは、上水に利用する地下水の細菌除去から排水浄化まで、幅広い用途がある。従来は繊維、紙、セラミックなどのフィルターが使われていたが、どのフィルターも除去した物質が付着して処理能力が低下するので、定期的に洗浄あるいは交換する必要がある、手間と費用がかかる。また、フィルターの性能によって、対応できる除去物質、源水の汚濁状態や温度などに制約があった。

バネ式フィルターは、線材をコイル状に巻いた筒状(バネ形)のフィルターで線材間にミクロン単位の隙間が設けられており、この隙間に汚水を通すことで浮遊物質や細菌をとらえて除去する。濾過する際はフィルターの外側から内部に向けて、圧力を加えた源水を流し、きれいになった水を内部から出す。洗浄する際は内側から洗浄水を流し、フィルターの外側に付着した汚れを洗い流すことができる。メンテナンスが容易かつ安価だけでなく、耐久性が高いのが、バネ式フィルターの大きな特徴となっている。また対応できる除去物質の幅が広く、高温、高圧、高濃度の条件にも対応でき、濾過装置のコンパクト化も実現している。

化学工場や食品工場をはじめ浄水場などで、バネ式フィルターを使った濾過装置の採用が進んでいる。すでに中国やインドでも導入されているほか、最近は途上国で上水用の濾過装置として注目されている。



ステンレス製バネ式フィルター(断面図)

※このコーナーに掲載御希望の方は、「特産品」のプロフィール・連絡先をFAX:03-3519-2706までお送りください。

より高度の判断ができ、人類に有用なロボットは、一つ一つに高い水準が求められる複合技術からなり、その開発が簡単である訳がない。しかし、幸せなことに、その実現は夢ではなく、未来と言えるところまで来ている。(鈴木)

日本人はロボット好きと言って間違い無いと思う。しかしロボット開発初期の研究者は、その実現が馬鹿げていると変人扱いされたと聞く。それが今や、ロボットは単に動くだけでなく、少しの事ならば判断できるまでになっている。

また、本田技研工業の「ASIMO」や、村田製作所の「ムラタセイサク君」、京商の「MAN OI」、テムザックの「ロボリア」などが知られており、これらは商標登録もされている。

国際ロボット連盟(IFR)によれば、日本では世界で最も多くの産業用ロボットが働いている。加えて、案内や掃除、警備などを目的にしたロボット、技術開発を目的としたロボットなど様々な用途でロボットが使われている。最近では、福島原発事故調査において、千葉工大と東北大らが開発した調査ロボットQuinceが使われて話題になった。

夢の ロボット技術

ジャーナリスト
こぼれ話



阪間和之(作) 飯岡菜子(画)

